

平成20年度 病虫害発生予察注意報 第1号

平成20年4月28日
発表：福島県病虫害防除所

- 1 対象作物：ナシ
- 2 病虫害：ナシ黒星病
- 3 対象地域：中通り地方、浜通り地方
- 4 発生量：多い

予報の根拠

- (1) 休眠枝を強制的に発芽させ、腋花芽のりん片を調査した結果、中通り、浜通り地方ともに全ての調査ほ場で病斑が確認された。特に、中通り南部および浜通りでは発生程度も高く、本年の越冬菌密度は例年より高いと推定される(図1)。
- (2) 4月中旬の巡回調査で、黒星病の花そう基部発病の目安となる腋花芽りん片の脱落不良のほ場が散見された。
- (3) 重要防除期である開花始め(4月20日、農業総合センター果樹研究所「幸水」)頃の降水量が多かった(表1)。そのため菌密度が増加しているおそれがある。

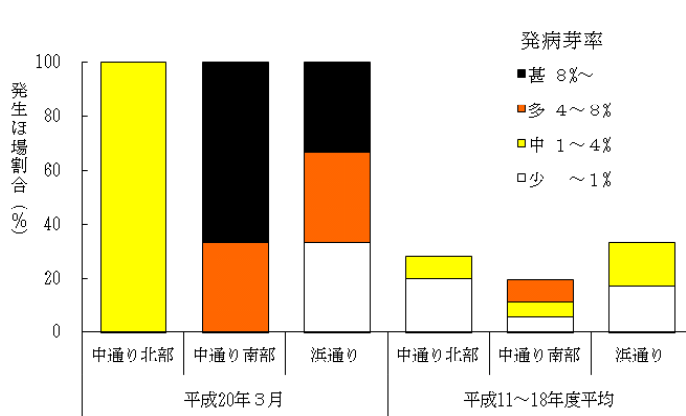


表1 平成20年4月4半旬の降水量

地点名	降水量(mm)	平年値(mm)	平年比(%)
福島	71.0	15.4	461
郡山	50.5	16.1	314
浪江	315.5	22.8	1384
小名浜	148.0	22.5	658

図1 腋花芽りん片での越冬状況

防除対策

(1) 耕種的防除

腋花芽にりん片が脱落せず残っている場合、その芽基部は黒星病に感染しているおそれがある。これは重要な伝染源となるので、見つけ次第丁寧に除去し適切に処分する。また、葉や果実で発病を認めた場合も同様にする。

(2) 薬剤防除

落花直後に本病に卓効のあるE B I剤(表2参照)を必ず散布する。その後も発生がみられる場合は、5月中旬にパルノックスフロアブルまたはダイボルトフロアブルまたはチオノックフロアブルにかえてユニックス顆粒水和剤47 2,000倍を散布する。ただし、開花直前にE B I剤を散布しなかったほ場ではE B I剤を散布する。

表2 ナシでのE B I剤の使い方

薬剤名	濃度	使用期間 (収穫前日数)	本剤の 使用回数	備考
アンピルフロアブル	1,000倍	7	3	
インダーフロアブル	1万倍	7	3	
オーシャイン水和剤	4,000倍	前日	5	
サルバトーレME	3,000倍	21	3	
スコア顆粒水和剤	4,000倍	14	3	
トリフミン水和剤	3,000倍	前日	3	
バイコラル水和剤	3,000倍	30	3	
マネージDF	6,000倍	21	3	
ラリー水和剤	3,000倍	14	3	
ルビゲン水和剤	3,000倍	21	3	

※薬剤を選択する際、薬剤の使用回数と成分ごとの総使用回数(他剤も含む)に十分注意する。

※薬剤を選択する際、収穫前日数に十分注意する。

※濃度のアンダーラインは、登録(平成20年4月23日現在)濃度に幅があることを示す。

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部 発生予察課(病虫害防除所)までご連絡ください。

Tel 024-958-1709 Fax:024-958-1727

- 本情報は、福島県病虫害防除所ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html> でもご覧になれます。